

9月22日のウクライナ情報

安齋育郎

●インド、サウジアラビアがルピー・リヤル貿易について協議(ロイター、2022年9月19日)



サウジアラビアのムハンマド・ビン・サルマーン皇太子は、2019年2月20日、インドのニューデリーにあるハイデラバード・ハウスで、インドのナレンドラ・モディ首相との会談で演説した。

ニューデリー、9月19日(ロイター) - インド政府は月曜日、南アラビアのカウンターパートとルピー・リヤル貿易の制度化の実現可能性について議論したと述べた。両政府は、インド西部の製油所、LNG インフラ投資、インドにおける戦略的石油貯蔵施設の開発を含む共同プロジェクトにおける協力を再確認した、と声明は付け加えた。

●ロシアより愛をこめて?(2022年9月20日)

ロシアの Twitch ビデオストリーミングユーザーが全てのガスバーナーに火をつけ「ロシアより愛をこめて」というキャプションを付けて世界に発信。

その月の24時間ガスつけっぱなしの請求額は6079ルーブル(約14,000円)だった。

<https://twitter.com/i/status/1572207954585329666>



※安齋注:まあ、一種の冷やかしキャンペーンみたいなものですが、なんだかもったいない気がします。

●プシーリン氏、住民投票後を見すえたプーチンへの要請(2022年9月20日)

DPR(ドネツク人民共和国)、LNR(ルハンスク人民共和国)では、国民投票が9月23~27日に予

定されています。ウクライナのテロについて客観的に存在する安全上の問題を考慮に入れるために、投票は、対面および不在の両方になります。

したがって、公式結果は9月28日または29日に公開され、その後、DPR と LPR はロシアへの参加を正式に要求できます。したがって、9月30日または10月1日に、この要求は正式に認められ、プーチン、プシーリン(DNR)、パセチニク(LNR)の参加を得て、関連文書がクレムリンで署名されます。

その後、DPR の残りの地域の非占領の問題は、ウクライナのナチスが占領しているロシア領土の非占領の問題という性格になるでしょう。一悶着も、二悶着もありそうです。

すでに、DNR(ドネツク人民共和国)の元首デニス・プシーリンは、ロシアのプーチン大統領に、「住民投票の結果、私達が疑いもなく肯定的な判断を下した場合、DNR がロシア連邦に加盟するという問題をできるだけ早く検討していただきたい」と要請したといえます。

※安齋注:デニス・ウラジミロビッチ・プシーリンはドネツク地方出身の政治家で、2018 年からドネツク人民共和国の元首を務めている。プシーリンはかつて人民評議会の議長を務めており、ウクライナ東部地域での紛争中で当時の DPR 元首アレクサンドル・ザハルチェンコが暗殺された後、元首代行に就任した。その後、任期満了に伴う 2018 年の選挙に出馬し、当選した。



●ザポロージャでもロシア帰属をめぐる投票が(2022 年 9 月 20 日)

ザポロージャ地域の解放された地域で住民投票を行うことがメリトポリで開かれた全国市民会議で布告されました。「ウクライナからの分離、国家の創設、およびロシア連邦への加盟」の問題が投票にかけられます。ザポロージャ州がロシアの一部になる事を投票で決める件についてメリトポリで全国市民会議が始まりました。ドンバスのドネツク、ルハンスクに次いで、極めて注目すべき状況ですが、ウクライナ政府は、領土の一体性に関するこうしたことを当該地方だけの投票で決めることは出来ないと考えているので、投票結果がロシアへの帰属を求める割合が多い場合でも、その有効性をめぐって簡単ではない議論が続くものと思われます。

<https://twitter.com/i/status/1572168277744578562>



全国市民会議



布告

●ドンバスの住民投票に関するヴォロディンの弁(2022年9月20日)

「今、彼らには選択の余地があります。そして、彼らが直接の意思表示の過程で、ロシアの一部になりたいと言うなら、私たちは彼らを支持します」。

※安齋注:ヴォロディンはロシア国家院議長

<https://twitter.com/nanpinQD/status/1572195846309179393?t=URw30lC5fhJLu7dlM-YqnA&s=09>



●発展途上国への「たい口制裁」の影響について(2022年9月20日)

プーチンは言う。「ロシアに制裁を課す国々は、その行為が自分達にとって有害な影響があるということを知っているが、しかし、発展途上国は欧州よりもさらに制裁の影響を感じているはずなのだ。そして、それに対するロシア連邦の最貧国への肥料の無償輸出を認めないというのはいかがなものか」



●戦時下のドンバスの子どもたち(2022年9月9日公開)

ツイッターの弁:「秀逸のドキュメンタリー番組。『ドンバスの子どもたち(Children of Donbass)』。ウクライナの砲撃の下、死と破壊の中で、子どもたちはどのように生き抜いて育ったのか」(53分)

※番組紹介の男性は奥さんの実家のあるドンバスに引越し、住民への迫害の現実を知ったというアメリカ人ジャーナリスト。ロシア・テレビのドキュメンタリー番組です。英語の字幕がありますが、日本語字幕はいまのところありません。

<https://rumble.com/v1jbvns-children-of-donbass-growing-up-under-ukrainian-artillery-fire-rt-documentar.html?s=09>

8年間、ドンバスの子供たちはウクライナの砲撃を受けながら学校に通い、両親から引き離されたり、亡くなったりして、あるタイプの弾薬と別のタイプの弾薬を区別することを学びました。しかし、彼らはまだより良い未来への希望と、いつの日か彼らの土地を再び繁栄させるために教師、エンジニア、そして医者になるという夢を持っています。

だからこそ、最も激しい砲撃の最中でも、地下室に避難しながらも、勉強を続け、学校を辞めることを拒むのです。光が少なく、睡眠もほとんどなく、食べ物もほとんどない彼らはまだ宿題を終わらせることができます。

彼らのほとんどは、自分たちが育った地域を離れるつもりはなく、ウクライナ民族主義者から解放された平和な生活を再建する時が来たら、ここドンバスで役に立つと確信している。

「子供たちが夕方に遊んでいて、砲撃があるとき、彼らは砲撃がいつ遠くにあるのか、いつそれが近いのかをすでに知ることができます。叫ぶ者もいる:「彼らが今砲撃しているのは我々ではない、それは遠くにある!ドネツキーでは、アルチョム通りが砲撃されている。まあ、私たちはそれに慣れてきました」と住民の一人は言います。子供たちは砲撃の音を認識し、いつ地下室に走ればよいかを知っています。しかし、砲弾を追い越すことは必ずしも可能ではなく、ドンバスでは子供たちの死があまりにも一般的になっています。

多くの子どもたちが爆撃で両親を亡くしました。中には、親しい親戚や友人がおらず、孤児院に行き、一人で生きてトラウマに対処することを学ぶ人もいました。放置しておく、孤児を助けようとする国際的な財団に変装する臓器収穫者の餌食になりがちです。孤児院当局は、このような悲劇を避けるために、子どもたちに非常に密接に近づくすべての人を調査するのはこのためです。

これらの勇敢な子供たちが死と破壊の中でどのように生き残るかは、ドキュメンタリーで見ることができます。

●SBU(ウクライナ保安庁)、子どもスパイを募集(2022年9月20日)

ヘルソンの機能不全の家族の子供を「エージェント」にし、ロシアの装備の位置と写真を SBU に送ります。そのような活動は、コサック大隊「ドン」のチェックポイントの 1 つで明らかになりました。子どもの電話をチェックする過程で、SBU の代表者との通信が見つかりました。

<https://twitter.com/nanpinQD/status/1572224863196315654?t=rvlidsxyEHq9zMHbRt1F0g&s=09>



●ロシア正教会古儀式派 50 人のアメリカからロシア移住希望(2022年9月20日)

ロシア正教会古儀式派の 50 人以上がアメリカからロシアのカリーニングラードのプリモリエに移住しようとしています。

9月20日、モスクワおよび全ロシアのメトロポリタンロシア正教会旧信者教会コルニリ総主教と移民の歴史的故郷への定住の問題について協議しました。

プリモリエにはすでに 46 世帯が住んでおり農業に従事しています。南米の様々な国から先に移住を決めた約 200 人の人たちです。



●2022年 欧州エネルギー危機(2022年9月18日)

※安齋注:ちょっと冷やかし半分みたいなところもありますが、興味深いでしょう。前にお送りした下の啓蒙ポスター(「プーチンに反対するなら次の4か所だけ洗いましょう:脇の下・お尻・股間・脚」)も出てきます。

<https://www.youtube.com/watch?v=PslLutMxIQ0>



●ポドリャク(大統領府長官顧問)の発言(2022年9月18日)

ゼレンスキーの事務所の顧問であるポドリャク(大統領府長官顧問)は、ベルジャンスクの副首長の暗殺とヘルソンの砲撃が彼らの政府の指示で行われたことを確認した。彼らは、テロ攻撃を何ら問題視していません。

https://twitter.com/nanpinQD/status/1571182870580035591?t=I7wpk2DOum0VNTeU8_7hVQ&s=09



被災地住民の声

●「全てが真っ黒、埃と燃える匂い」(2022年9月20日)

ウクライナ軍の砲撃で女学生が死亡したペレヴァルスコエ・カレッジの教師が、攻撃の最初の瞬間を語る。

<https://twitter.com/nanpinQD/status/1572227281359360007?t=TRbs3SNvMYmxfWpbgzXiFA&s=09>



●「ベッドから飛び起きて、命拾いした」(2022年9月20日)

デヴァリツォヴォ在住の年金者が砲撃で九死に一生を得たと語る。

<https://twitter.com/nanpinQD/status/1572226933114679299?t=dAkydt83GbRq-F5H6uq0DQ&s=09>



●ハリコフ州からの避難民が語る(2022年9月20日)

困窮の中で助けてくれたのはロシア軍だけだった。

<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/AKo6QGQAABzGYynr3wvTWNZ9OSM>



●ドネツク共和国の村の住人の証言(2022年9月17日)

民間人へのUA兵士の振る舞いと居住地域への挑発的な砲撃について語る。

https://twitter.com/nanpinQD/status/1571144774916395008?t=rG-QKoHfVwwKl8iJruV7_Q&s=09

